

アポロを育てた信徒夫婦

2023年2月26日

使徒の働き 18章23～28節

アキラとプリスカ (=プリスカ)
①使徒 18・2、18、26

アポロ
使徒 18・24、19・1

②ローマ 16・3

③コリント I 16・19

コリント I 1・12、3・4～5、22
4・6。16・12

④テモテ II 4・19

テトス 3・13

ローマ書の執筆場所はコリント

コリント書 " エペソ

テモテ II " ローマの獄中から (殉教直前)

テトス "

56年

55～56年

テモテはエペソで牧会 67年

テトスはクレテで伝道 65年

ローマ 16・3～5 a

キリスト・イエスにある私の同労者、プリスカとアキラによろしく伝えてください。二人は、私のいのちを救うために自分のいのちを危険にさらしてくれました。彼らには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています。また、彼らの家の教会によろしく伝えてください。

コリント I 16・19

……アキラとプリスカ、また彼らの家にある教会があなたがたによろしくと言っています。

テモテ II 4・19

プリスカとアキラによろしく。

コリント I 1・12

あなたがたはそれぞれ、「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケファに」「私はキリストに」と言っているとのこと。

" 3・4～6

ある人は「私はパウロにつく」と言い、別の人「私はアポロに」と言っているのであれば、あなたがたは、ただの人ではありませんか。アポロとは何なのでしょう。パウロとは何なのでしょう。あなたがたが信じるために用いられた奉仕者であって、主がそれぞれに与えられたとおりのことをしたのです。私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

" 16・12

兄弟アポロのことですが、兄弟たちと一緒にあなたの方のところに行くように、私は強く勧めました。けれども、彼は今のところ行く意志は全くありません。しかし、良い機会があれば行くでしょう。

テトス 3・13

律法学者ゼナスとアポロが何も不自由することがないように、その旅立ちをしっかりと支えてあげてください。

序：パウロ：コリント～エペソ～カイザリア～エルサレム～アンティオキア (第二次終了 v. 23 第三次旅行に出發 アンティオキア～ガラテヤ・フリュギア～… エペソ

エペソに残ったプリスカとアキラ

I. アポロのエペソ来訪

- アポロ ①アレキサンドリア（エジプトの地中海に面した都市、学問盛ん）出身
ギリシャ人、エジプト人、ローマ人、ユダヤ人が居住
公用語はギリシャ語 旧約聖書ギリシャ語訳（70人訳）B.C. 2世紀
- ②ユダヤ人
旧約聖書に精通
- ③主の道（＝旧約の預言に基づき、イエスは救い主であると論証する知識と信仰によって）について教育
- ④霊に燃えて
- ⑤イエスのことを正確に語り、教えた
- ⑥ヨハネのバプテスマ（水のバプテスマ）しか知らない
聖霊のバプテスマ（ペンテコステ以後、信じる者に与えられる）を知らない

II. プリスキラとアキラの助け

- ①ユダヤ人の会堂で大胆に語り始めたアポロの説教を聞いた
- ②二人はアポロを自宅に招いた
大衆の面前で恥をかかせまいとの配慮
不十分なところを補う（神の道の詳細）
- ③旧約聖書の預言 ⇒ イエスにおいて成就
信じる者は聖霊を受ける＝救いの保証

パウロから学んでいた福音の理解がアポロに伝えられ、アポロの知識は確かなものとなった
有力な宣教者を送り出す結果となった

III. 兄弟たち（教会）の協力

アカイアに行くアポロのために紹介状
歓迎してくれるよう

IV. アカイアでのアポロ

- ①恵みによって信者となった者たちを大いに助けた＝聖霊のバプテスマ
- ②不信者に対してイエス＝キリストと聖書によって証明
- ③反対論を唱えるユダヤ人たちを論破

V. 結び

- (1)みことばの正しい理解（教理を体系的に知る）⇒ 霊に燃える
- (2)主にある者同士（伝道者と信徒）の励まし、祈り、愛の奉仕、交わり
各々の立場で、賜物を用いてともに労する
- (3)教会におけるキリスト者の夫婦の働き
家庭内の秩序 ＋ それぞれの賜物に応じて奉仕（信仰・自由・行動）
プリスカとアキラの献身、家の教会（家庭を解放）、主と隣人への愛
- (4)教える者にも教わる者にも主が真中におられるという自覚・謙虚が必要